

「教育と公共」研究部会（第40回）

日時：2022年10月11日（金）13:30～16:30

場所：オンライン

出席：上野正道・浅井幸子・田嶋一・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
山口和人所長・川上智子(野間教育研究所事務局)

欠席：狩野浩二兼任研究員・吉久知延

内容：（1）藤井研究員「バイオグラフィと人間形成」

- ・生の記録と人間形成の研究の一つとして、ドイツの教育哲学において試みられている人間形成論と質的な経験的研究の架橋を目的とする「人間形成論に方向づけられたバイオグラフィ研究」の可能性と限界について考える
- ・人間形成論に方向づけられたバイオグラフィ研究：ハンブルク大学のコケモアーの研究に端を発している。異質なものととの出会いによる世界と自己の構成に着目し、変容としての人間形成過程を理論化
- ・ナラティブ・アイデンティティ：何らかの形で語られたものに同一化していくこと。特殊なアイデンティティ。＝自己認識としての自己。安定した首尾一貫した同一性ではない
- ・人生物語を物語ること＝誰という問いに答えること
- ・課題：ナラティブ・インタビューを解釈する方法が分り難いため、研究到達点が見えにくい

（2）仲田研究員「M.フィールドイングによる『生徒の声』理論」

1 「生徒の声」から「民主的共同体」へ

2 生徒－教師のパートナーシップ～6つのタイプ

- 1) データソースとしての生徒：生徒の進歩や健康状態に関する情報を活用。生徒の声に耳を傾け、実際に行われた学業や生徒と合意した目標に目を向ける
- 2) アクティブな回答者としての生徒：生徒の学習へのアプローチを深め、専門的な判断を強化するために、教師が生徒との対話と議論を進める
- 3) 共同探究者としての生徒：生徒と教師の関与が増しより高度なパートナーシップを築く。生徒と教師の役割は対等ではないが、より相補的。生徒のコミットメントと同意が不可欠
- 4) 知識創造者としての生徒：パートナーシップと対話は依然として中心的なものだが、単に応答的な役割ではなく、リーダーシップやイニシアティブが生徒の声によってとられる
- 5) 共同著者としての生徒：生徒と教師の間で共有される協力的なパートナーシップ。相互の責任と活力を分有する関係
- 6) 共通善に対するコミットメントと責任の共有：生徒と教師の間に共有された協働的パートナーシップによる、生きられた民主主義。(a) 共通善に対する共同のコミットメント (b) 権力と責任の平等な共有のための場と機会を拡張

・次回研究会 11月11日（金）13:30～